



▲「新商品のヒントはすべてお客様の声の中にあります」と話す早川静英社長



▲このポータブル・トラックスケールは、配線不要のワイヤレス計量器で、これも業界初の商品

しかし、長い歴史の中にはピンチもあった。その最大のもの、言うまでもなく太平洋戦争だ。同社は本店をはじめ工場も焼失。しかも、跡継ぎもいなかったため、店を畳む寸前まで追い込まれた。

### 取引先の一言が開発のバネに

そこで、守随家と親戚に当たる早川家が話し合い、事業を受け継ぐことになった。そして、早川さ

天文年間（1532〜55年）の甲州（現山梨県）を統治した武田信玄は、粗悪な秤が横行し、甲斐金山から算出する金を正確に計量できないことに頭を悩ませていた。

### 固定観念を捨てる

守随本店は計量機器の業界で二目も二目も置かれていた企業で、自動車や造船などの業界からも注目されている。というのも、業界関係者が驚くような商品を次々と誕生させているからだ。

昭和三十二年に株式会社組織に改め、本社と工場を再建。それまで培ってきた技術を生かし、地道に品質のいい秤をつくり続けた。

### 信玄との縁を持つ守随家

そんな守随本店の起源は、江戸で秤座の家職を特許された守随正次の三男、治郎右衛門が明暦4（1658）年に興した名古屋秤座にさかのぼる。



**<プロフィール>**  
 社名 株式会社守随本店  
 住所 愛知県名古屋市中川区福川町3-1  
 電話 052-361-1511  
 代表者 早川静英 代表取締役社長（十八代目）  
 創業 明暦4（1658）年  
 資本金 2000万円  
 売上高 5億円  
 従業員 30人

「これは、『秤は動かないもの』という固定観念を捨てて開発したものです。当社が何より大切にしていることは、お客様のニーズを的確に把握して具現化し、『こういうものが欲しかったんだよ』と喜んでいただける商品をつくることです」と社長の早川静英さんは話す。

早川さんは父親と衝突しながらも、その思いを貫き、顧客も驚くような商品づくりを目指した。ちょうどそのとき、追い風がやって来た。機械式秤から電子式秤への転換期に差し掛かったのである。

「これは、『秤は動かないもの』という固定観念を捨てて開発したものです。当社が何より大切にしていることは、お客様のニーズを的確に把握して具現化し、『こういうものが欲しかったんだよ』と喜んでいただける商品をつくることです」と社長の早川静英さんは話す。

早川さんは父親と衝突しながらも、その思いを貫き、顧客も驚くような商品づくりを目指した。ちょうどそのとき、追い風がやって来た。機械式秤から電子式秤への転換期に差し掛かったのである。

「これは、『秤は動かないもの』という固定観念を捨てて開発したものです。当社が何より大切にしていることは、お客様のニーズを的確に把握して具現化し、『こういうものが欲しかったんだよ』と喜んでいただける商品をつくることです」と社長の早川静英さんは話す。

早川さんは父親と衝突しながらも、その思いを貫き、顧客も驚くような商品づくりを目指した。ちょうどそのとき、追い風がやって来た。機械式秤から電子式秤への転換期に差し掛かったのである。

「これは、『秤は動かないもの』という固定観念を捨てて開発したものです。当社が何より大切にしていることは、お客様のニーズを的確に把握して具現化し、『こういうものが欲しかったんだよ』と喜んでいただける商品をつくることです」と社長の早川静英さんは話す。

早川さんは父親と衝突しながらも、その思いを貫き、顧客も驚くような商品づくりを目指した。ちょうどそのとき、追い風がやって来た。機械式秤から電子式秤への転換期に差し掛かったのである。

「これは、『秤は動かないもの』という固定観念を捨てて開発したものです。当社が何より大切にしていることは、お客様のニーズを的確に把握して具現化し、『こういうものが欲しかったんだよ』と喜んでいただける商品をつくることです」と社長の早川静英さんは話す。

早川さんは父親と衝突しながらも、その思いを貫き、顧客も驚くような商品づくりを目指した。ちょうどそのとき、追い風がやって来た。機械式秤から電子式秤への転換期に差し掛かったのである。